

科目名	論理学		
担当教員	阿部 秀男		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	筋道の通った論理の正しさと深い思索力の涵養		
到達目標	伝統的論理学の思考様式の学習とその様式では掬いあげられない領域への洞察		
授業概要	<p>思考とコトバ  論理学の歴史  古代ギリシャのアリストテレスが構築し、中世の神学校や大学では諸学(法学・医学・神学)の基礎づけとして学ばせ、現代の記号論理学へと引き継がれてきた。  論理学的思考様式  同一律, 根拠律, 定義  判断と真偽  推論の妥当性</p>		
授業計画・内容	<p>伝統的形式論理学  第1章 思考の根本原理  第2章 概念  第1節 概念とは  第2節 概念の性質  第3節 区分・分類と定義  第4節 概念間の関係と概念の種類  第3章 命題  第1節 判断と命題の要素  第2節 命題の区分  第3節 定言命題の4種類  第4節 オイラー図形  第5節 標準形式を作る際の注意</p>	<p>第4章 推理(1)演繹推理(直接推理)  第1節 推理について  第2節 直接推理  第5章 推理(2)演繹推理(間接推理)  第1節 定言三段論法  ※ 省略算段論法</p> <p>ディベート  1) ディベート説明  2) チーム編成  3) 諸準備  4) ディベート実践</p>	
使用テキスト	改訂版 論理学の初歩 大貫義久 他 著(梓出版社)		
参考書			
評価基準方法	1.授業参加の態度 2.発表の状況 3.試験の結果 以上に基づいて総合的に判断する。		
備考・学生へのメッセージ	予習すること		

科目名	物理学		
担当教員	森山 隆則		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	看護に必要な科学的ものの見方・考え方を基礎的物理学理論の学習を通じて養い、基礎看護技術および看護日常業務に必要な物理的基礎・背景についての理解を深める。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際単位系について説明でき換算できる。</li> <li>2. 体位変換に役立つトルクの考え方を説明できる。</li> <li>3. 冷罨法・温罨法の基礎理論となる水の物理学的特性について説明できる。</li> <li>4. 酸素ポンベの圧力計の意味を説明できる。</li> <li>5. 溶液のpHと様々な濃度の表現方法を説明できる。</li> <li>6. 浸透圧の概念を理解し血液の浸透圧について説明できる。</li> <li>7. 医療に応用されている電磁波について説明できる。</li> </ol>		
授業概要	教員が作成したパワーポイントを用いて双方向的授業を実施する。授業内容の理解を深めるために演習を並行して実施する。		
授業計画・内容	<p>以下の内容について15回で講義する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 物を表す様々な単位と換算</li> <li>2. 力の合成と分解の基礎理論</li> <li>3. 体位変換に役立つトルクの基礎理論</li> <li>4. 温度の定義と水の特性について</li> <li>5. 冷罨法・温罨法の基礎理論</li> <li>6. 圧力・大気圧の基礎知識</li> <li>7. 血圧に関する基礎知識</li> <li>8. 気体の性質の基礎理論(ボイル・シャルルの法則)</li> <li>9. 酸素ポンベの圧力計からわかること</li> <li>10. 点滴の基礎理論(位置エネルギーと運動エネルギー)</li> <li>11. 酸・アルカリ・pHの考え方と血液と尿のpHについて</li> <li>12. 溶液の様々な濃度の表し方と換算</li> <li>13. 浸透圧の定義と単位および血液の浸透圧について</li> <li>14. 医療に用いられる様々な電磁波の種類と応用</li> <li>15. 放射線の持つ特性と医療への応用</li> </ol>		
使用テキスト	教員が作成する配布資料		
参考書	完全版 ベッドサイドを科学する 看護に生かす物理学 平田 雅子著(学習研究社)		
評価基準方法	出席状況および試験結果により以下の4段階に評価する。 1.優 2.良 3.可 4.不可		
備考・学生へのメッセージ	物理学を学んでいなくても理解可能な授業内容を設計しております。不明な部分についての質問を歓迎します。		

科目名	心理学			
担当教員	杉野 佑太			
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間	
科目のねらい	本科目のねらいは、心理学を概観することで、人の心の動きを理解することである。			
到達目標	本科目の到達目標は、人の心の動きを知り、自分・他者の行動、他者の性質について考えを深められるようになることである。			
授業概要	心理学は文字通り、人間の心の働きを問う学問である。心理学では、とりわけ客観的な事実に基づいて心の働きを解明、理解しようとする点に特色がある。本授業では、心理学の様々な知識に触れることで、自身や他者の心の働きについて理解を深めるとともに、現実場面において、どのようにそれらの知識を活用していくかを考えていく。			
授業計画・内容		単元(テーマ)	講義内容	学習課題・留意点
	1	心理学とは	心理学の概要	心理学を概観する
	2~9	こころの仕組み	感覚・知覚 学習 記憶 思考	実験や現象を通して、何かを感じたり考えたりするための基礎的な機能について学ぶ
	10~13	個性	性格 臨床心理学	個人のパーソナリティなどについて学ぶ。また、心理学でよく知られている心の危機についても知識を深める
	14~15	こころの発達	発達心理学	人間の心の発達過程について理解する
	16	評価	試験	
使用テキスト	はじめて出会う心理学 改定版 長谷川 寿一他 著 (有斐閣アルマ)			
参考書				
評価基準方法	各回ごとのミニクイズを行い、その得点を平常点をします。 平常点(30%)、及び、最終回の試験の成績(70%)で評価します。			
備考・学生へのメッセージ	一言で心理学といっても、その領域は多岐にわたります。みなさんが心理学と認識しているものと違った内容も含まれるかもしれません。まずは自分の興味のあるところを発見して、理解の足掛かりにしてほしいと思います。			

科目名	コミュニケーション		
講師	宮崎 順一		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 効果的コミュニケーションの基礎を学ぶ.</li> <li>* コミュニケーションを通して、お互いが理解しあえる体験をする.</li> <li>* クラスメイトとのコミュニケーションの練習を通してスキルを身につける.</li> </ul>		
授業概要			
授業計画・内容	<p>1回目 コミュニケーションを通して良好な人間関係を作ろう</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己紹介とクラスメイトを知る</li> <li>2) 教室内のコミュニケーション風土作りを行う</li> <li>3) コミュニケーションとは何かを学ぶ</li> </ol> <p>2回目 効果的なコミュニケーションの5つの要素(1)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションに影響を与える自己概念とは</li> <li>2) 自己概念シートの作成</li> <li>3) あいまいな自己概念</li> <li>4) 自己概念の形成</li> <li>5) 看護師になろうとしている自分を語る</li> </ol> <p>3回目 効果的なコミュニケーションの5つの要素(2)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) コミュニケーションにおける傾聴とは</li> <li>2) 聞く・訊く・聴くについて</li> <li>3) クラスメイトの話を聴く</li> <li>4) ロールプレイ: 役割をもって人の話を聴く体験</li> </ol> <p>4回目 効果的なコミュニケーションの5つの要素(3)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 相手にわかる明確な表現</li> <li>2) 明確な表現のポイント</li> <li>3) 相手に分かるように伝える訓練</li> <li>4) 看護に大切な自分の伝えたことが伝わっているかの確認の方法</li> </ol> <p>5回目 効果的なコミュニケーションの5つの要素(4)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 感情の取り扱い</li> <li>2) 怒りの感情との関わり方</li> <li>3) 感情コントロールの留意点</li> <li>4) 感情表現の方法</li> <li>5) 看護場面での感情表現</li> </ol> <p>6回目 効果的なコミュニケーションの5つの要素(5)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自己開示とコミュニケーション</li> <li>2) 自己開示の方法</li> <li>3) コミュニケーションと人間関係</li> </ol> <p>7回目 事例を通して看護コミュニケーションを学ぶ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事例を通して患者の気持ちを受け取る</li> <li>2) 事例を通して気づいたことを出し合う</li> </ol> <p>8回目 授業のまとめと今後の実践</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 授業で学んだコミュニケーションのポイントを確認する</li> <li>2) よりよいコミュニケーション求めて、看護学生としてどのように患者・医師・先輩看護師・看護教員とのコミュニケーションを深めるかを考える</li> </ol>		
使用テキスト	ありません		
参考書			
評価基準方法	レポートと試験で評定を行います。配分については講義の時に提示します。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	情報科学		
担当教員	中村 岩美		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	情報処理に必要な基礎的知識・技術を学び、情報化社会に対応できる能力を養う。		
到達目標	情報処理に必要な基礎的知識・技術を学び、情報化社会に対応できる能力を養う。		
授業概要	講義にあたり、各自USBを準備してください。		
授業計画・内容	1 Wordの使用 履歴書の作成 2 エクセルの利用法 3 SS成績表の作成 4 グラフの作成 5 レポートの書き方 6 Wordのレイアウト 7 図及び表のWordへのコピー 8 ペイントの利用法 9 パワーポイントによるスライドの作成 10 プレゼンテーションリハーサル 11 看護学プレゼンテーション 12.13 課題研究 スライド作成 14.15 課題研究 発表会		
使用テキスト	なし		
参考書			
評価基準方法	出席状況とプレゼンテーションにより評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	国語表現法		
担当教員	大川 良輔		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	すべての学科の基礎となる国語力・国語表現力を養う。		
到達目標	文章を書く上での規則や、国語表現について学ぶ。 文章を書く訓練を行い、自分の考えを表現する力を身に着ける。		
授業概要	授業中に、短い課題(レポート)を数回作成してもらいます。詳細なスケジュールは第1回目講義のガイダンスで指示します。		
授業計画・内容	第1回目 ガイダンス(レポートとは何か)・原稿用紙の割り付け 第2回目 レポートの文章表現(文末表現・語彙) 第3回目 レポートの構成(3部構成) 第4回目 アウトラインの作成 第5回目 要約と引用・他人発の情報を使用する際の注意 第6回目 情報源の明示・参照文献欄の作成 第7回目 容認→反論を含む論説文 第8回目ブレインストーミング(抽象的なテーマから問題を設定する) 第9回目 容認→反論を含む文章の構成 第10回目 容認→反論を含む課題の作成(演習) 第11回目 容認→反論を含む課題の作成(演習の続き)・「文のねじれ」の修正 第12回目 資料の要約・最終課題の投稿規定について 第13回目 最終課題の作成(演習) 第14回目 最終課題の作成(演習の続き) 第15回目 最終課題の相互添削・その他のレポートの書き方		
使用テキスト	教科書は使用しない。資料は適宜配布する。		
参考書			
評価基準方法	出席状況と課題内容で評価します。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	解剖生理学 I		
担当教員	馬場 力哉・深田 翔太郎(16時間) 大平 浩司(14時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する。		
到達目標	解剖生理を学ぶための基礎を理解する。 運動器の正常な構造と機能を理解する。 消化器の正常な構造と機能を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	≪ 馬場・深田講師 ≫ 1 人体とはどのようなものか 2 人体の素材としての細胞・組織 3 構造と機能からみた人体 4 骨格とはどのようなものか 5 骨の連結 6 骨格筋・体幹の骨格と筋 7 上肢の骨格と筋 8 下肢の骨格と筋 9 頭頂部の骨格と筋 10 筋の収縮	≪ 大平 講師 ≫ 1 消化器解剖概論 口・咽頭・食道の構造と機能 2 腹部消化管の構造と機能 3 肝臓・胆嚢・膵臓の構造と機能 3大栄養素 4 腹膜の構造と機能	
使用テキスト	系統別看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)		
参考書	系統別看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤(医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 運動器 成人看護学⑩(医学書院)		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 馬場・深田講師 55点 大平 講師 45点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	解剖生理学Ⅱ		
担当教員	上村 明 (14時間) 山内 康嗣 (14時間) 三嶽 大貴(2時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する。		
到達目標	呼吸器の正常な構造と機能を理解する。 循環器の正常な構造と機能を理解する。 耳鼻咽喉頭の正常な構造と機能を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	≪上村講師≫ 1 呼吸器の構造と機能 2 呼吸運動のメカニズム 3 換気量・肺循環・血流・呼吸運動  ≪山内講師≫ 1 循環器系の構造 2 心臓の構造 3 血圧・心臓の生理 4 循環病態生理 5 高血圧について  ≪三嶽講師≫ 1 耳鼻咽喉頭の構造と機能		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)		
参考書	系統別看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 耳鼻咽喉頭 成人看護学④ (医学書院)		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 上村講師 45点 山内講師 45点 三嶽講師 10点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	解剖生理学Ⅲ		
担当教員	加藤 政俊(12時間) 明石 更紗(4時間) 木村 太俊(10時間) 千徳 敏克(4時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する。		
	内分泌の正常な構造と機能を理解し、代謝・体温の正常な機能を理解する。 眼の経常な構造と機能、および眼疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 口腔機能の正常な構造と機能、役割の重要性を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	<p>《加藤講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 自律神経による調整</li> <li>2 ホルモンについて 視床下部・下垂体 甲状腺・副甲状腺・膵臓・副腎 性腺その他</li> <li>3 内分泌器官の構造と機能</li> <li>4 内分泌器官とホルモンの機能</li> <li>5 ホルモンによる調整</li> </ol> <p>《明石講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 眼の構造と機能</li> <li>2 眼疾患の症状とその病態生理</li> <li>3 眼疾患の検査と治療・処置</li> </ol> <p>《木村講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生体の防御機構 非特異的防御機能・特異的防御機能 生体防御機能の関連臓器</li> <li>2 体温とその調整</li> </ol> <p>《千徳講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 歯牙・歯周組織の解剖 <ol style="list-style-type: none"> <li>①硬組織の構造 齲歯の成因・組織隙</li> <li>②歯周組織の構造 歯周病の成因</li> </ol> </li> <li>2 口腔機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>①咀嚼</li> <li>②嚥下 誤嚥性肺炎・口腔ケア</li> </ol> </li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 歯・口腔 成人看護学⑮(医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 眼 成人看護学⑬(医学書院)		
参考書	系統別看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥(医学書院)		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 加藤講師 40点 木村講師 30点 明石講師 15点 千徳講師 15点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	解剖生理学Ⅳ		
担当教員	井戸坂 弘之（18時間）高橋 一成・東海林 旺次朗（12時間）		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	生命現象の機序を学び、正常な人体の構造と機能を理解する。		
到達目標	脳神経の正常な構造と機能を理解する。 腎泌尿器の正常な構造と機能を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	≪井戸坂講師≫ 1 神経系の構造と機能 2 脊髄と脳 3 脊髄神経と脳神経 4 脳の高次機能 5 運動機能と下行伝導路 6 感覚機能と上行伝導路  ≪高橋講師・東海林講師≫ 1 腎臓の構造と機能 2 体液の調整 電解質異常・酸塩基平衡 3 男性生殖器の構造と機能		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門基礎 解剖生理学 人体の構造と機能①(医学書院)		
参考書	系統別看護学講座 専門Ⅱ 脳神経 成人看護学⑦ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 腎泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院)		
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 井戸坂講師 60点 高橋講師・東海林講師 40点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	生化学		
担当教員	小関 俊成		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	生化学は、「人の体」に関わる資格を持つ看護師にとって必須項目である。本授業において身体で何が形成されているか、それらが体内で起こる(異化・同化)様々なことについて学ぶ。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	<p>第1章 生体分子 生体で行われている科学反応</p> <p>第2章 たんぱく質の性質 たんぱく質の分類 構成するアミノ酸の種類 たんぱく質の高次構造</p> <p>第3章 酵素の性質と働き 酵素とは 酵素の特性 酵素の種類</p> <p>第4章 生体内における糖質の代謝 糖とは何か 糖の分類 糖質は体の重要なエネルギー源である</p> <p>第5章 生体内における脂質の代謝 脂質の種類と科学的性質 脂質の代謝 リポタンパク質と脂質の代謝</p>	<p>第6章 生体内におけるアミノ酸及びたんぱく質の代謝 脱アミノ酸 脱炭酸反応 尿素回路 糖新生 エネルギー代謝 分岐鎖アミノ酸の代謝 含硫アミノ酸の代謝 オキシアミノ酸の代謝 芳香族アミノ酸</p> <p>第7章 生体内における核酸の役割 核酸はコピーされる たんぱく質を作るための核酸 モノ及びジヌクレオチド</p>	
使用テキスト	わかりやすい生化学 第4版 疾患と代謝・栄養の理解のために (ヌーヴェルヒロカワ)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	栄養学		
担当教員	砂澤 光希		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	生命維持に必要な栄養素とそのエネルギー代謝について学び、健全な生命活動を営むための基本的知識を養う。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 栄養学と看護</li> <li>2 栄養状態の評価・判定 <ul style="list-style-type: none"> <li>1) 栄養状態の評価・判定の定義と目的</li> <li>2) 栄養状態の評価・判定</li> </ul> </li> <li>3 栄養素の種類とはたらき</li> <li>4 エネルギー代謝</li> <li>5 栄養素の消化・吸収</li> <li>6 栄養素の体内代謝</li> <li>7 栄養ケア・マネジメント</li> <li>8 ライフステージと栄養</li> <li>9 健康づくりと食品・食生活</li> </ul>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門基礎 栄養学 人体の構造と機能（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	出席状況・講義終了後の試験で評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病理学総論		
担当教員	岡本 賢三		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	病理学総論を学習する事によって様々な病気を科学的に理解していくための基本的な知識を得る.		
到達目標			
授業概要	教科書に沿った内容で進めていく. 教科書に書かれていることをしっかりと理解していくために, スライドを使いながら解説していく.		
授業計画・内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>1 病気と病理学</li> <li>2 老化と死</li> <li>3 組織・細胞に生じる異常と修復</li> <li>4 炎症</li> <li>5 免疫とその異常</li> <li>6 止血と循環</li> <li>7 先天異常</li> <li>8 感染症</li> <li>9 癌</li> <li>10 環境による疾患—喫煙・アスベスト</li> <li>11 難病・免疫不全・自己免疫性疾患</li> </ul>		
使用テキスト	新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進① 病理学 (メヂカルフレンド社)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する.		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学 I		
担当教員	鈴木 三和子 (16時間) 高階 太一 (14時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する。		
到達目標	呼吸器系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 循環器系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	<p>≪高階講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 呼吸器疾患の症状とその病態生理</li> <li>2 呼吸器疾患の検査と治療・処置</li> <li>3 呼吸器疾患の理解</li> </ol> <p>肺がん 閉塞性肺疾患・拘束性肺疾患・びまん性肺疾患 肺炎(細菌性・非定型) その他の肺感染症</p> <p>≪鈴木講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 循環器疾患の症状とその病態生理</li> <li>2 循環器疾患の検査と治療・処置</li> <li>3 循環器疾患の理解</li> </ol> <p>虚血性心疾患 心筋梗塞 心不全 高血圧 不整脈 弁膜症 心筋症 先天性心疾患</p>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 高階講師 45点 鈴木講師 55点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学Ⅱ		
担当教員	池田 拓磨(16時間) 馬場 力哉(14時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する。		
到達目標	脳神経系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 運動器系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	<p>≪池田講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 脳神経疾患の症状とその病態生理</li> <li>2 脳神経疾患の検査と治療・処置</li> <li>3 脳神経疾患の理解</li> </ol> <p>くも膜下出血・脳出血 脳梗塞 脳挫傷・頭部外傷 水頭症 脳感染症 てんかん・脱髄・変性疾患 認知症</p> <p>≪馬場講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 運動器疾患の症状とその病態生理</li> <li>2 運動器疾患の検査と治療・処置</li> <li>3 運動器疾患の理解</li> </ol> <p>骨折・脱臼・捻挫 骨関節の炎症性疾患 骨腫瘍・軟部腫瘍 神経疾患 脊椎疾患</p>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 池田講師 55点 馬場講師 45点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学Ⅲ		
	高橋 桂 (8時間) 三嶽 大貴 (2時間) 石塚貴之・辻井鴻・山本史徳 (20時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する		
到達目標	血液疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 内分泌代謝疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 感染症・アレルギー・膠原病疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 耳鼻科疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	≪石塚貴之・辻井鴻・山本史徳講師(10時間)≫ 1 血液の生理と造血の仕組み 2 血液疾患の症状とその病態生理 3 血液疾患の検査と治療・処置 4 血液疾患の理解 赤血球系・白血球系疾患・リンパ系疾患・出血凝固系疾患  ≪高橋桂講師(8時間)≫ 1 感染症・アレルギー・膠原病の症状とその病態生理 2 感染症・アレルギー・膠原病疾患の検 3 感染症・アレルギー・膠原病の理解  ≪石塚貴之・辻井鴻・山本史徳講師(10時間)≫ 1 内分泌代謝疾患の症状とその病態生理 2 内分泌代謝疾患の検査と治療・処置 3 内分泌代謝疾患の理解 内分泌系疾患・糖尿病・高脂血症 メタボリックシンドローム  ≪三嶽大貴講師(2時間)≫ 1 耳鼻咽喉頭疾患にあらわれる症状とその病態 中耳炎・突発性難聴・扁桃炎 メニエル病・慢性副鼻腔炎		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ アレルギー・膠原病・感染症 成人看護学⑪ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 耳鼻咽喉頭 成人看護学⑭ (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 高橋桂講師 30点 三嶽大貴講師 10点 石塚貴之・辻井鴻・山本史徳講師 血液30点 内分泌30点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学Ⅳ		
担当教員	大和 弘明(12時間) 高橋 一成・東海林 旺次朗(8時間) 古堂 俊哉(6時間) 村松 隆一(4時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する。		
到達目標	消化器疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 腎泌尿器疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 女性生殖器疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。 皮膚科疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する。		
授業概要			
授業計画・内容	<p>≪大和講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>消化器疾患の症状とその病態生理</li> <li>消化器疾患の検査と治療・処置</li> <li>消化器疾患の理解</li> </ol> <p>≪高橋講師・東海林講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>腎泌尿器疾患の症状とその病態生理 尿の異常・排尿に関する症状 浮腫—尿毒症</li> <li>腎泌尿器疾患の検査と治療・処置</li> <li>腎泌尿器疾患の理解</li> </ol> <p>≪古堂講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>女性生殖器疾患の症状とその病態生理 女性生殖器の解剖発生 月経周期</li> <li>女性生殖器疾患の検査と治療・処置</li> <li>女性生殖器疾患の理解 外陰・膣・子宮の疾患 子宮頸がん・子宮体がん 卵巣腫瘍</li> </ol> <p>≪村松講師≫</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>皮膚疾患の症状とその病態生理</li> <li>皮膚疾患の検査と治療・処置 植皮・湿潤療法</li> <li>皮膚疾患の理解 乾癬・帯状疱疹・真菌症・疥癬・熱傷</li> </ol>		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 腎泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 皮膚 成人看護学⑫ (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。 試験配点 大和講師 40点 高橋講師・東海林 講師 30点 古堂講師 20点 村松講師 10点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	病態生理学Ⅴ		
担当教員	浜田 卓巳(14時間) 鈴木 麗美(16時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	疾病の原因・病態・症状・診断・治療について理解する.		
到達目標	外科系疾患の原因・病態・症状・診断・治療を理解する.		
授業概要			
	1 手術侵襲と生体の反応 手術後の創傷管理 感染管理 2 麻酔法, 酸素療法と機械的人工換気 麻酔法 酸素療法 3 外科的治療の基礎 頭部・頸部・肺及び胸部 乳腺 食道・胃十二指腸 大腸 肝臓・胆嚢・膵臓 副腎 4 救命救急 クリティカルな患者の病態の特徴と生体反応 5 透析療法 6 透析療法の合併症 7 腎移植 8 腎不全と腎不全を来す疾患 慢性糸球体腎炎・ネフローゼ症候群・糖尿病性腎症		
使用テキスト	系統別看護学講座 別巻 臨床外科各論 (医学書院) 系統別看護学講座 別巻 臨床外科総論 (医学書院) 系統別看護学講座 専門Ⅱ 腎泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院) 系統別看護学講座 別巻 救急看護学 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する. 試験配点 浜田講師 50点 鈴木講師 50点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	薬理学		
担当教員	小嶋 啓修		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	医療において薬物療法は重要な役割を果たしており、チーム医療の一員である看護師にとって薬理学の知識は必須のものとなっている。より正確な、化学的な根拠に基づいた薬理学の知識を習得する。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	第1章 総論 I 薬理学の概念：小児，妊婦，高齢者の薬物療法 II 医薬品の管理 第2章 末梢神経系作用薬 I 自律神経作用薬 II 筋弛緩薬 III 局所麻酔薬 第3章 中枢神経系作用薬 麻酔，疼痛，不眠薬，鬱病，躁鬱病，てんかん，パーキンソン病，認知症 第4章 循環器系作用薬 I 抗高血圧作用薬 II 心臓作用薬 III 腎臓作用薬 IV 血液・造血器作用薬 第5章 抗炎症系作用薬 基礎と治療薬について 第6章 呼吸器系作用薬 気管支喘息治療薬，鎮咳薬，去痰薬，慢性呼吸不全 第7章 消化器系作用薬 胃炎治療薬，抗消化性潰瘍薬，嘔吐，便秘，下痢 第8章 ホルモン系，生殖器系作用薬 I 糖尿病，甲状腺機能障害，骨粗鬆症治療薬 II 前立腺肥大 第9章 抗感染症薬 I 抗感染症薬 II 消毒薬 第10章 抗悪性腫瘍薬 基礎と治療薬 第11章 漢方薬 基礎と治療薬		
使用テキスト	わかりやすい薬理学 第3版（ニューヴェルヒロカワ）		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	微生物学		
担当教員	高木 祐之		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	微生物の特徴と生体に及ぼす影響について学び、正しく対処できるための基礎的知識を養う。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	第1章 微生物の微生物学 第2章 細菌の性質 第3章 真菌の性質 第4章 原虫の性質 第5章 ウィルスの性質 第6章 感染と感染尿 第7章 感染に対する生体防御 第8章 感染源・感染経路からみた感染症 第9章 感染症予防 1) バイオハザードとバイオセーフティ 2) 滅菌と消毒 (1) 滅菌法と消毒 (2) 消毒と消毒法 第10章 感染症の診断 第11章 感染症の治療 1) 化学療法の基礎 第12章 感染症の現状と対策 第13章 病原細菌と細菌感染症 第14章 病原真菌と真菌感染症 第15章 病原原虫と原虫感染症 第16章 主なウィルスとウィルス感染症		
使用テキスト	系統別看護学講座 専門基礎 微生物学 疾病の成り立ちと回復の促進 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況と試験により総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	臨床検査(放射線医学を含む)		
担当教員	亀田 優子(10時間) 松田 浩史(6時間)		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 16時間
科目のねらい	各種検査の意義と, 安全・確実な検査実施に向けての基礎的知識を理解する.		
到達目標	医療における臨床検査の役割を知り, 各種検査の意義と方法を学ぶ. 患者に正しく安楽に検査を受けていただくための基礎的知識を養う. 各種参加の意義と方法について学び, 安全・安楽な検査実施に向けて基礎的知識を養う.		
授業概要			
授業計画・内容	<<亀田講師>> 1 臨床検査 臨床検査とその役割 臨床検査の流れと看護師の役割 2 主な臨床検査 一般検査 血液検査 化学検査 免疫・血清検査 生理機能検査  <<松田講師>> 放射線療法 X線診断 MRI・CT 核医学診断 放射線治療 放射線防御		
使用テキスト	系統別看護学講座 別巻 臨床検査 (医学書院) 系統別看護学講座 別巻 臨床放射線医学 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	出席状況・講義終了後のペーパーテストで評価する 亀田講師 65点 松田講師 35点		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	公衆衛生学		
担当教員	都築 俊文		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	個人および集団の疾病予防を健康の保持増進を図るための方法論を学び、具体的に社会に応用する能力を身につける。		
到達目標			
授業概要			
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 公衆衛生の理解 公衆衛生の歩み, 公衆衛生と健康(実践における訪問看護・介護支援・介護予防)</li> <li>2 人口と公衆衛生 公衆衛生を学ぶ上で重要な指標: 人口静態と人口動態, 生命表と平均寿命 少子時代の到来と公衆衛生</li> <li>3 環境と公衆衛生 環境と公衆衛生健康問題 環境問題の動向と公衆衛生(公害問題の反省, 地球温暖化と環境変動 パワーポイント)</li> <li>4 食と公衆衛生 健康づくりと食, 食品保健と健康障害</li> <li>5 国民の健康と保健統計 保健統計, 健康指標の意義</li> <li>6 疾病の疫学と予防 予防医学の意味と分類 疫学及び疫学調査 感染症疾患の予防(外来感染症, 再興感染症, 新興感染症など)</li> <li>7 公衆衛生と健康教育 健康教育と保健活動</li> <li>8 公衆衛生活動の実際 母子保健, 学校保健, 地域保健対策, 産業保健, 老人保健福祉, 精神保健福祉, 難病</li> <li>9 保健行政 中央保健行政, 地域保健行政, 地方衛生研究所, 保健所, 市町村保健センター</li> <li>10 公衆衛生における今日的課題と展望 看護をめぐる保健・医療・福祉 国際社会における公衆衛生</li> </ol>		
使用テキスト	新体系 看護学全書 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学 (メジカルフレンド社) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 公衆衛生がみえる(メディックメディア)		
参考書			
評価基準方法	出席状況とペーパーテストにより総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ			

科目名	看護学概論		
担当教員	斎藤 登美枝		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	この科目では、看護の構成要素である「人間」「健康」「看護」について学んでいきます。看護を提供する場、システム、看護の定義を理解することで、今後看護を考えていくためのベースとなる科目です。		
到達目標	看護の概念、目的及び機能を説明することができる。 人間とはどのような存在か、健康とはどのような状態であるのかについて、自己の考えを表現することができる。 保健医療福祉の現状を理解し、その中で看護が果たす役割を説明できる。 看護職の定義、役割、業務について述べるができる。 看護職における倫理について、演習を通し、自己の考えを深めることができる。		
授業概要	各自で学習した内容や講義の内容について事例を活用し授業を進めます。		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 看護とは何か、看護の構成要素</li> <li>2 F.ナイチンゲールの考える看護 看護覚書(序章、補章を読みレポートを提出)</li> <li>3 V.ヘンダーソンの考える看護 マズロー欲求の階層論 看護の基本となるもの I IIを読みパラダイムについてどのような述べているのかをレポート提出</li> <li>4 D.オレムの考える看護</li> <li>5 看護職能団体の看護の定義</li> <li>6 人間の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1)ホメオスターシスとストレスコーピング</li> <li>2)成長と発達の特徴</li> </ol> </li> <li>7 3)病人の理解、役割行動、危機状態 4)事例を使って病人の気持ちを考える</li> <li>8 健康とは何か <ol style="list-style-type: none"> <li>1)WHOの健康の定義</li> <li>2)健康を考える要素</li> </ol> </li> <li>9.10 国民の健康の全体像の理解 テーマを調べ検討しレポートを提出する</li> <li>11 看護職の定義、役割、業務の範囲</li> <li>12 医療・看護の提供システムとチーム医療</li> <li>13 看護職の教育とキャリア開発</li> <li>14.15 医療倫理と看護倫理 「倫理が看護職に必要な理由について自己の考え」をレポートする</li> </ol>		
使用テキスト	基礎看護学1 看護学概論 メヂカルフレンド社		
参考書	看護覚え書 F.ナイチンゲール(現代社) 看護の基本となる者 V.ヘンダーソン(看護協会出版会) 公衆衛生がみえる 医療情報科学研究編(メディックメディア)		
評価基準方法	出席状況、試験、レポート、参加態度で総合的に評価します。 試験 85点 レポート 15点		
備考・学生へのメッセージ	講義に関する基本的な参加姿勢については、講義開始時に説明します。また、各自テキストを読み、予習して望んでください。		

科目名	基礎看護学 基本技術 I (フィジカルアセスメント)		
担当教員	平山 佳苗		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	対象の健康状態をアセスメントする際に用いるバイタルサイン及びフィジカルアセスメントに関する知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヘルスアセスメントの意義と目的を理解し、必要とされる技術(バイタルサイン測定・計測・系統別フィジカルイグザミネーション・観察)を習得することができる。</li> <li>2. バイタルサイン測定・計測・系統別イグザミネーション・観察から得られた情報から、対象の健康状態をアセスメントし、実際のケアに結びつけることができる。</li> <li>3. 対象に実施するにあたり、適切な態度を養うことができる。</li> <li>4. 看護記録の目的と留意点、その構成について理解することができる。</li> </ol>		
授業概要	講義の後に、学生相互や看護モデル人形を用いての演習があります。互いに、バイタルサインの測定・身体計測・フィジカルイグザミネーションを実施します。演習後には、測定値・計測値・レポート等の課題があります。また、学習したことを用いて、身近にいる人の健康状態をみる課題も予定しています。		
授業計画・内容	<p>第1回           コースオリエンテーション                   ヘルスアセスメント                   観察をするために必要な技術</p> <p>第2・3回       バイタルサイン・身体計測に関する基礎知識</p> <p>第4～6回       バイタルサインの測定・身体計測の実際</p> <p>第7回           フィジカルイグザミネーションの基礎知識</p> <p>第8～11回     身体各部のフィジカルイグザミネーション</p> <p>第12～14回    フィジカルイグザミネーションおよび呼吸を整える援助の実際</p> <p>第15回         記録・報告</p>		
使用テキスト	<p>フィジカルアセスメントがみえる (メディックメディア)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[2] 基礎看護技術 I (医学書院)</p> <p>系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護学[3] 基礎看護技術 II (医学書院)</p> <p>根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)</p> <p>病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 (医学書院)</p> <p>緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 (医学書院)</p>		
参考書			
評価基準方法	授業への参加状況およびレポート等の提出物(30%)、筆記試験(70%)を合算し、総合的に評価します。また、血圧測定の技術試験は合格を条件とします。		
備考・学生へのメッセージ	対象の健康状態をアセスメントするには、多くの知識が必要となります。よって、それぞれの授業に関連する解剖生理・病態生理の事前・事後学習をしてください。演習するにあたり、その目的・目標・必要物品・手順・得られた情報からアセスメントすることについてなど、事前に覚えて臨んでください。また、技術の習得には、反復練習が必要となるので、時間を作って取り組みましょう。		

科目名	基礎看護学 基本技術Ⅱ(看護過程1)		
担当教員	平山 佳苗		
配当年度	1学年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	看護過程展開の意義を理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解できる。</li> <li>2. 事例を元に、問題解決過程やクリティカルシンキング、リフレクション、倫理的判断といった看護過程の基盤となる考え方について理解できる。</li> <li>3. アセスメント(情報収集・解釈)・看護問題の明確化・看護計画・実施・評価といった看護過程の各段階について、その基本的な考え方を理解できる。</li> </ol>		
授業概要	講義で看護過程について学ぶと共に、紙上事例を用いて実際に看護過程展開を行います。紙上事例を用いての展開では、グループおよび個人ワークで段階的に学んでいきます。事例1(1回/週ごと)・事例2の課題があります。		
授業計画・内容	<p>第1回           コースオリエンテーション 看護過程の意義・要素 事例1の提示</p> <p>第2～13回       看護過程の各プロセス 事例1の看護過程展開</p> <p>第14・15回      事例2の提示および看護過程展開</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[2] 基礎看護技術Ⅰ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ (医学書院) 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 (医学書院) 緊急度・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院) 今日の治療薬2021 (南江堂)		
参考書	専門基礎科目、専門科目の教科書		
評価基準方法	事例に関するグループワーク参加状況と実習記録等の提出物(55%)、筆記試験(45%)を元に、総合的に行う。		
備考・学生へのメッセージ	自ら調べ考える姿勢が重要です。また、思考過程を表現することも求められるので、積極的に参加して看護過程の考え方を習得しましょう。 臨地実習では、この科目の学習が基盤となります。よって、分らないことは質問し早めに解決しましょう。		

科目名	基礎看護学 基本技術Ⅲ(看護過程2)		
担当教員	平山 佳苗		
配当年度	1学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	看護過程展開の意義を理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護援助を行うための基礎的知識を定着する。</li> <li>2. 看護援助を行うための行動計画が記載できる。</li> <li>3. 行動計画に基づいた看護援助ができる。</li> <li>4. 看護場面について振り返りができる。</li> </ol>		
授業概要	自主的に課題をすすめることで、グループワークでの話し合いが深まります。しっかり自己学習を行い演習に望むことが不可欠です。		
授業計画・内容	回数	授業計画	内容
	1	基礎看護技術の知識の確認 行動計画についての説明	小テスト 行動計画とは、行動計画の書き方
	2	行動計画についてのグループワーク	個人のレポートを持ちより話し合う
	3	模擬患者への看護援助の練習	グループで模擬患者への援助を考え実践できるための練習を行う
	4		
	5~8	演習: 模擬患者への看護援助	グループ毎に模擬患者へ看護援助を行う 全体討議
	【演習の進め方について】		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 個人ワーク: 1回目の講義の説明をもとに行動計画を作成し提示された日に提出する。</li> <li>2. グループワーク: 個人ワークで行った行動計画を持ちより話し合いグループで検討した行動計画を指定された日に提出する。</li> <li>3. グループワーク: グループで作成した行動計画を基に模擬患者への看護援助を練習する。</li> <li>4. 演習日: グループで模擬患者への看護援助を行った後、全体討議を通して看護場面について振り返る。</li> <li>5. レポート提出</li> </ol>			
使用テキスト	専門基礎科目、専門科目の教科書		
参考書			
評価基準方法	小テスト・出席状況・提出物の提出および内容をもとに総合的に行う。		
備考・学生へのメッセージ	模擬患者さんへの援助場面を大切に看護を考え実践できる基礎を養っていけるように一緒にがんばりましょう。		

科目名	基礎看護学 基本技術Ⅳ（安全）		
担当教員	阿部 珠子（4時間） 平山 佳苗（11時間）		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	看護活動に伴う危険因子を理解し、安全を守るために必要な知識・技術・態度を学ぶ。 感染を防止するための技術について学ぶ。		
到達目標	感染成立の条件および院内感染防止の基本を知り、看護師が感染防止のための実践を行うことの重要性を述べることができる。 標準予防策を学び、正しく実践できる。 感染経路別予防策を学び、適切に実践できる。 医療器具の管理及び環境整備の意義や重要性を述べるができる。洗浄・消毒・滅菌の実際、感染性廃棄物の取り扱いについて学び、正しく実践できる。 無菌操作について学び、実践することができる。 カテーテル関連血流感染対策、針刺し事故について述べるができる。		
授業概要	阿部講師の授業は、座学形式です。 平山講師の授業は、座学形式と演習です。演習後にはレポートの課題があります。		
授業計画・内容	<p>授業内容</p> <p>阿部講師</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染予防の基礎知識（講義） 洗浄・消毒・滅菌、その意義と方法 標準予防策基本の考え方 手指衛生・個人防護具・針刺し事故防止・安全な注射手技・感染性廃棄物処理 院内感染の防止 感染管理組織体制・感染発生時の対応</li> <li>2. 感染経路別予防策（講義） 空気感染・飛沫感染・接触感染対策 患者隔離</li> </ol> <p>平山講師</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 感染防止の技術（講義） 感染予防の基礎知識 感染成立の条件</li> <li>2. 感染予防のための手技（演習） 日常的手洗い 衛生学的手洗い 手術時手洗い PPEの着脱方法 滅菌物の取り扱い・無菌操作</li> <li>3. 創傷管理の基礎知識（講義） 皮膚の構造 創傷とその治癒 創傷治癒のための環境づくり 創傷処置</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学③（医学書院）		
参考書	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術（医学書院）		
評価基準方法	阿部講師（30%） 平山講師（70%） 筆記試験・授業への参加状況およびレポート等の提出物を総合的に評価します。 また、感染予防の技術試験の合格を条件とします。		
備考・学生へのメッセージ	事前・事後学習をして学習を深めましょう。また、日常生活においても、授業で得た知識・技術・態度を意識して実践できるようにしましょう。		

科目名	基礎看護学 生活援助 I (環境・活動・休息)		
担当教員	原野 理		
配当年度	1年生 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	環境の調整及び日常生活の行動を促進する意義を理解し、必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 療養生活の環境を構成する要素を理解し、病室・病床の環境のアセスメントおよび調整することができる。</li> <li>2. 姿勢の基礎知識・ボディメカニクスの原理・様々な体位とその目的・移送用具について理解し、安全安楽に援助することができる。</li> <li>3. 睡眠と睡眠障害について理解し、睡眠に障害を持つ対象への具体的な援助を考えることができる。</li> <li>4. 褥法の種類と身体に及ぼす影響を理解し、安全・安楽に褥法を提供することができる。</li> </ol>		
授業概要	講義の後に、学生相互や様々な物品を用いての演習があります。演習後にはレポートの課題があります。技術試験では、移乗・移送、ベッドメイキングがあります。		
授業計画・内容	<p>第1回 療養生活の環境,病室環境のアセスメントと調整 環境整備・ベッドメイキング・リネン交換 ボディメカニクス</p> <p>第2～5回 看護におけるコミュニケーションの基本 病床の整備の実際(ベッドメイキング)</p> <p>第6～8回 活動・休息の意義とアセスメント 活動・休息への援助 体位変換、良肢位、ポジショニング,廃用症候群の予防,移乗・移送 褥法,転倒転落防止</p> <p>第9～13回 活動・休息への援助の実際</p> <p>第14～15回 病床の整備の実際</p> <p>※ 演習内容や講義の順番を入れ替えて実施となる可能性があります。事前に連絡するので、確認してください。</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護学② 基礎看護技術 I (医学書院) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護学③ 基礎看護技術 II (医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 (医学書院)		
参考書			
評価基準方法	レポート等の提出物15%、筆記試験85%を合算し、総合的に評価します。また、ベッドメイキング、移乗・移送は技術試験があります。		
備考・学生へのメッセージ	事前・事後学習をして学習を深めましょう。自身の日常生活における環境や身体の動き等を意識してみましょう。 技術の習得には、反復練習が必要となるので、時間を作って取り組みましょう。		

科目名	基礎看護学 生活援助Ⅱ（食事）		
担当教員	長尾 真由美		
配当年度	1年 前期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	食生活の意義を理解し、看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 食べることの意義について考えることができる</li> <li>2. 対象の栄養状態および食欲・摂食能力のアセスメントの方法を理解できる</li> <li>3. 食事介助と口腔ケアの具体的な方法を理解できる</li> <li>4. 非経口栄養摂取の概略と、経鼻経管栄養法の具体的な方法を理解できる</li> <li>5. 食事における看護師の役割りについて理解できる</li> </ol>		
授業概要	テキストとパワーポイントで講義を進めていきます（プリントは適宜配布します） 食事介助の演習では、各自で食事を準備してもらいます 各演習後にはレポート課題があります（テーマは講義の中で提示します）		
授業計画・内容	<p>第1回 食事の意義 食事とは 食事援助のアセスメント 栄養状態のアセスメント 水分・電解質のアセスメント 摂食能力・食欲・食に対するアセスメント 食事の種類と形態</p> <p>第2回 食事の介助の基礎知識・援助の実際</p> <p>第3回 口腔ケア 嚥下訓練</p> <p>第4・5回 演習 ・食事介助 ・口腔ケア</p> <p>第6回 非経口的栄養摂取 経管栄養法、中心静脈栄養法</p> <p>第7・8回 演習 ・経管栄養チューブの挿入 ・栄養剤の滴下</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院）		
参考書	看護技術ベーシックス改訂版（医学芸術社） 看護技術がみえる基礎看護技術①②（メディックメディア） その他、適宜提示します		
評価基準方法	筆記試験とレポート課題・講義参加態度をもとに総合的に評価する		
備考・学生へのメッセージ	「食事」は生命を維持するために必要不可欠なことです。また、「食事」を楽しむことは豊かな生活にもつながります。人の「食生活」について、一緒に考えて学んでいきましょう。 予習復習をして講義・演習に参加しましょう。		

科目名	基礎看護学 生活援助Ⅲ（排泄）		
担当教員	佐藤 かをり		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	排泄の意義を理解し、看護に必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人間にとっての排泄の意義を理解できる</li> <li>2. 排泄の援助に必要なアセスメントの方法を理解できる</li> <li>3. 排泄の援助方法を理解できる</li> <li>4. 対象に応じた排泄の援助を根拠に基づき説明できる</li> <li>5. 排泄の援助を安全・安楽に配慮して実施することができる</li> </ol>		
授業概要	講義・DVDで学習した後、技術演習を行います。 演習後にはレポート課題があります。		
授業計画・内容	<p>第1回 自然排尿・自然排便の基礎知識 排泄のアセスメント 自然排尿・自然排便の援助</p> <p>第2回 トイレ・ポータブルトイレにおける排泄援助 床上排泄の援助 オムツ排泄の援助 陰部の清潔</p> <p>第3・4回 床上排泄の実際（演習） 便器・尿器介助 オムツ交換 陰部洗浄</p> <p>第5回 導尿 一時的導尿 持続的導尿</p> <p>第6回 排便を促す援助 グリセリン浣腸 高圧浣腸</p> <p>第7・8回 排尿・排便を促す援助の実際（演習） 一時的導尿 持続的導尿 グリセリン浣腸</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③（医学書院） 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術（医学書院）		
参考書	看護技術ベーシックス改訂版（医学芸術社） 看護技術がみえる 基礎看護技術 ①②（メディック メディア） その他、適宜提示します。		
評価基準方法	筆記試験とレポート課題・講義参加態度をもとに総合的に評価する。 オムツ交換の実技試験の合格は必須とする。		
備考・学生へのメッセージ	腎・泌尿器、消化器の解剖生理を踏まえたうえで講義を進めるので、復習をして臨んでください。 排泄援助は、実習でもよく行う技術です。安全・安楽な援助ができるよう練習に励んでください		

科目名	基礎看護学 生活援助Ⅳ（衣と清潔）		
担当教員	金田 百香 原野 理		
配当年度	1学年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	この科目では、衣生活の調整及び身体清潔の意義を理解し、看護する際に必要な知識・技術・態度を学びます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.皮膚・粘膜の構造と機能を理解する。</li> <li>2.人間にとって清潔・衣生活の意義について述べるができる。</li> <li>3.清潔援助の効果と心身への影響を理解する。</li> <li>4.清潔援助(清拭, 洗髪, 部分浴), 寝衣交換の援助の目的をふまえ原則に基づき実施することが出来る。</li> <li>5.対象者への事前の説明ができ, 了解を得るための過程をたどることができる。</li> <li>6.清潔援助を通して, 患者の観察をすることが出来る。</li> <li>7.清潔援助を実施しながら, 対象者の状況に合った言葉かけを実施することが出来る。</li> <li>8.実施した援助を評価することが出来る。</li> <li>9.清潔援助を実践する際に必要な物品の準備・後片付けができる。</li> </ol>		
授業概要	生活援助Ⅳでは、身体の清潔の援助を取り上げ、人間にとって清潔・衣生活の意義について学びます。授業は、講義と演習を関連付けて行ないます。演習の事例は、主に臥床患者を想定し、清潔援助・寝衣交換を実施の目的、留意点、根拠を考えながら習得していきます。演習では患者と看護師の役割を全員が体験し、患者としての体験を自身の看護技術向上に生かしていきます。また、学生間で援助についての振り返りも行ないながら学びを深めていきます。授業の最後には、清潔援助の統合として、模擬患者役へ清潔援助を実施し評価する演習も予定しています。		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1回 清潔援助の基礎知識 清潔援助の実際(入浴・シャワー浴)</li> <li>2回 病床での衣生活の援助と実際 DVD学習 全身清拭・寝衣交換</li> <li>3回 寝衣交換(演習)</li> <li>4.5回 右上肢の石けん清拭(演習)</li> <li>6.7回 右上肢・胸・腹の石けん清拭(演習) DVD学習 洗髪・足浴・手浴・爪切り</li> <li>8.9回 ベッド上での足浴 座位での手浴 点滴中の寝衣交換(演習)</li> <li>10.11回 ケリーパッドを使用した洗髪、整容(演習)DVD学習 入浴・シャワー浴</li> <li>12.13回 全身清拭 フットバスを使用した足浴(演習)</li> <li>14.15回 技術試験又は演習</li> </ol> <p>※ 演習は、グループで行ないます。各グループ内でペアを固定せず演習を進めてください。  ※ 演習後には、実施した援助に対して評価するためのレポート提出があります。  ※ 演習内容は、変更になる場合があります。事前に連絡するので、確認してください。</p>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ（医学書院） 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術（医学書院）		
参考書			
評価基準方法	筆記試験 70% レポート 10% マニュアル作成 20%		
備考・学生へのメッセージ	使用する物品が多いので、忘れ物に注意してください。 準備・後片付けは、学生間で協力して実施しましょう。 事前に学習し、演習にのぞんでください。 演習に際しては、それにふさわしい身だしなみが必要です。 感染予防対策を行いながら、身体の清潔を保つ援助を学んでいきましょう。		

科目名	基礎看護学 診察援助 I (与薬)		
担当教員	長谷川 琢		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	薬物療法の意義を理解し、看護する際に必要な知識・技術・態度を学ぶ。		
到達目標	<p>薬物の剤型と特徴を理解し、正しい与薬、薬剤の管理方法を学ぶ。経口投与、口腔内投与、吸入、点眼、点鼻、経皮的投与、直腸内投与の特徴を理解し、援助の実際を学ぶ。注射の基礎知識を理解する。注射準備の実際、および皮下注射、皮内注射、筋肉内注射の実際を学び実践することができる。静脈内注射について、ワンショット、翼状針を用いた点滴静脈内注射、静脈内留置針を用いた点滴静脈内注射の実際を学び実践することができる。また、中心静脈カテーテル留置の介助を理解する。輸血管理の基礎知識を理解し、援助の実際を学ぶ。</p>		
授業概要	<p>授業の1～4・6・9・14・15回目は講義です。5・7・8・10・11・12・13回目は実習室を使用しての、演習です。演習の際には白衣を着用すると共に、髪などの決まりを守って演習に参加してください。演習後には、レポートを作成してもらいます。実際に注射針を使用しますので、管理や安全に十分に配慮して行動してください。</p>		
授業計画・内容	<p>授業内容</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 与薬に関する基礎知識 与薬とは(与薬の目的・意義)様々な与薬方法 薬物の吸収、排泄経路 看護師の役割(正しい与薬・薬物の管理・与薬に関わる法律) 誤薬防止(6Rについて)</li> <li>2. 経口与薬に関する基礎知識 内服薬・口腔内服について(目的・投与経路・種類・援助・留意点)</li> <li>3. さまざまな与薬法 直腸内与薬法・吸入・点眼・点鼻・経皮的与薬について(目的・投与経路・種類・援助・留意点)</li> <li>4. 注射 注射の基礎知識 注射の方法と種類 物品の特徴と取り扱い アンプル・バイアルでの注射の準備</li> <li>5. 技術演習注射器・注射針の準備 アンプルカット アンプル、バイアルからの吸い上げ</li> <li>6. 注射(皮下・皮内・筋肉内注射) 方法と適応 使用物品の特徴 注射部位、刺入角度 実施手順と注意点技術演習(注射の準備)</li> <li>7・8. 技術演習(皮下・皮内・筋肉注射の実際) 注射の準備 患者への説明 注射部位の選択 注射の実際</li> <li>9. 注射(静脈内注射・点滴静脈内注射) 方法と適応 使用物品の特徴 注射部位 刺入角度 実施手順と注意点</li> <li>10. 11. 技術演習(静脈内注射・点滴静脈内注射の実施) 静脈内注射・点滴静脈内注射の準備 翼状針・留置針を用いた実際 滴下調整</li> <li>12・13. 技術演習(点滴静脈内注射の管理) 点滴静脈内注射の準備と実施 三方活栓 ピギーパック法 輸液ポンプ・シリンジポンプ を用いた輸液</li> <li>14. 注射(中心静脈栄養法) 中心静脈栄養法(目的・種類・副作用・管理) 中心静脈栄養法時の看護</li> <li>15. 注射(輸血療法)と医療事故 輸血管理(輸血の目的・種類・副作用・実施手順・留意点) 与薬における医療事故、薬物療法における看護の役割と責任</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院)		
参考書	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院)		
評価基準方法	筆記試験(70%) 演習後のレポート(6%) 技術試験(20%)授業や演習の参加態度(4%) 技術試験合格した上で総合点が60%以上で単位認定とします。コロナの影響で授業内容が変更になり、評価基準方法等が変更となる場合があります。		
備考・学生へのメッセージ	必ず、予習復習をして授業に参加してください。		

科目名	基礎看護学 診療援助Ⅱ(診察介助・検査)		
担当教員	佐藤 かをり		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	検査・診察の介助を安全に実施できるための基礎的知識について学ぶ。		
到達目標	1. 対象が安全・安楽に検査・治療を受けるために必要な看護を理解する。 2. 検査や治療の伴う生活援助の看護を説明できる。		
授業概要	診察・検査の意義, 目的, 看護の役割を理解する。 採血の準備, 実施, 感染予防を考慮した物品の後片付けが正しくできる。 採血, 包帯の援助方法, 安全に実施するための注意事項を述べることができる。 直接的な身体への影響が大きい採血の技術は, 演習モデルを使用する。		
授業計画・内容	1. [講義]検査の目的 看護の役割 検体の取り扱い 採血について 2. [演習]真空採血管を使用した静脈採血 演習モデル使用 3. [講義]各種検査の看護(尿・便・喀痰・血液) 4. [講義]各種検査の看護 (X線, CT, MRI, 超音波, 心電図, 呼吸機能, 核医学, 内視鏡) 5. [講義]侵襲的処置の介助技術:穿刺(胸腔, 腹腔, 骨髄, 腰椎) 6. [演習]包帯法 7. [演習]真空採血管を用いた静脈採血技術試験 演習モデル使用 レポート内容は、患者役, 看護師役を通して学んだことを事実をもとに, 知識と関連させ根拠づけて記述とする。		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院)		
参考書	根拠と事故防止からみた基礎・臨床 看護技術(医学書院) 看護技術が見えるVOL2 臨床看護技術(メディックメディア)		
評価基準方法	筆記試験・出席状況・演習レポートをもとに総合的に評価する。		
備考・学生へのメッセージ	教科書の該当ページ, 配布プリントを確認し, 授業に臨んでください。演習プリントを読み, 演習内容に関して, 教科書, 配布プリントで手順を確認し, 演習に臨んでください。看護専門職を目指す者としての基本的姿勢が身に付くように学習をすすめましょう。		

科目名	臨床看護		
担当教員	原野 理		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	看護の基本として多様な健康上のニーズを持つあらゆる発達段階の人々に対し、基本的知識や技術が実践の場でどのように行われているのか、看護の対象者の状況(ライフサイクル, 場, 健康状態, 治療)に即して理解するための学習を行う。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズを述べることができる。</li> <li>2. 家族の機能からとらえた対象者との家族の健康上のニーズを述べることができる。</li> <li>3. 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズを述べることができる。</li> <li>4. 健康の維持・増進を旨とする看護について述べるができる。</li> <li>5. 急性期・慢性期・リハビリテーション期・終末期の各期における看護の特徴を述べるができる。</li> <li>6. 救命救急処置の基礎的知識・技術を身につけ実践することができる。</li> </ol>		
授業概要	授業の1～6回は、座学形式で行い内容によってはグループワークを行います。7回目の授業では、実際にBLS・AEDを演習として実践します。演習後にはレポートの作成を行っていただきます。また「医療機器の原理と実際」に関するレポートの作成も行っていただく予定です。		
授業計画・内容	<p>第1回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルからとらえた対象者と家族の健康上のニーズ</li> <li>2. 家族の機能からとらえた対象者との家族の健康上のニーズ</li> <li>3. 生活と療養の場からとらえた対象者と家族の健康上のニーズ</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人のライフサイクルからとらえた看護</li> <li>・子どもの理解と看護</li> <li>・成人の理解と看護</li> <li>・高齢者の理解と看護</li> <li>・親になる人の理解と看護</li> <li>・家族の理解</li> <li>・家族の健康上のニーズ</li> <li>・生活と療養の場とは</li> <li>・病院, 施設における看護</li> <li>・在宅における看護</li> </ul> <p>第2回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. 健康の維持・増進を旨とする看護について</li> <li>5. 急性期における看護</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康の維持, 増進を旨とする看護</li> <li>・急性期の特徴, 患者のニーズ, 看護援助</li> </ul> <p>第3回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>6. リハビリテーション期における看護</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リハビリテーション期の特徴, 患者のニーズ, 看護援助</li> </ul> <p>第4回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 慢性期における看護</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慢性期の特徴, 患者のニーズ, 看護援助</li> </ul> <p>第5回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>8. 終末期における看護</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・終末期の特徴, 患者のニーズ, 看護援助</li> </ul> <p>第6回</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>9. 救命救急の基礎知識</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>・心肺蘇生法, 止血法</li> </ul> <p>第7・8回</p> <p>演習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次救命処置の実際</li> </ul>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護学総論 基礎看護学④ (医学書院)		
参考書	根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院)		
評価基準方法	筆記試験(85%) 演習後のレポート(5%) 「医療機器の原理と実際」のレポート(5%) 授業や演習への参加態度(5%)		
備考・学生へのメッセージ	必ず、予習復習をして授業に参加してください。		

科目名	成人看護概論		
担当教員	斎藤 登美枝		
配当年度	1学年 前期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	ライフサイクルにおける成人期各期にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、成人期にある人々の健康増進に向けた看護について学ぶ。さらに、成人期の人々への看護支援のために必要な理論を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 成人期の特徴を人間の発達と生活の側面から理解する。</li> <li>2. 成人期にある人の健康に及ぼす要因について理解する。</li> <li>3. 成人期にある人に提供される医療・保健サービスについて理解する。</li> <li>4. 成人期にある人への看護アプローチの基本について理解する。</li> <li>5. 成人期にある人の健康を支える看護アプローチの基本について理解する。</li> <li>6. 成人期にある人の健康問題を解決するために必要な理論について学ぶ。</li> </ol>		
授業概要	基本知識を定着できるように、事例などを活用しながら授業を展開します。		
授業計画・内容	<b>回数</b>	<b>テーマ</b>	<b>内容</b>
	1回目	成人とは	人間の成長発達と成人の区分
	2回目	成人と生活・対象の理解	成人期の発達課題と関連する理論
	3回目	成人と生活・対象の理解	青年期の特徴と健康課題
	4回目	成人と生活・対象の理解	壮年期・中年期の特徴と健康課題
	5回目	成人と生活・対象の理解	向老期の特徴と健康課題
	6回目	大人の生活からとらえる健康	大人の生活状況の特徴・健康の状況
	7回目	生活と健康法律	
	8回目	健康おびやかす要因と看護⇒生活行動がもたらす健康問題	事例で健康問題について考える
	9回目		発表と全体討議
	10回目	成人への看護アプローチの基本	アンドラゴジー、行動変容、意志決定支援
	11回目	ストレス	ストレスコーピングプロセス、ストレスマネジメント
	12回目	健康破綻による危機状況	危機にある人々への支援、危機理論
	13回目	成人の人々と家族について	家族機能、家族支援の実際
	14回目	ヘルスプロモーションと看護	ヘルスプロモーションを促進する看護の場と活動
	15回目	*COVID-19の状況を踏まえてアクティブラーニング・およびグループワークを取り入れた授業とする。	
使用テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護①(医学書院)		
参考書	ナーシング・グラフィカ 成人看護学概論 成人看護学①(メディカ出版)		
評価基準方法	成績評価は参加状況、筆記試験、提出物をもとに総合的に行う。		
備考・学生へのメッセージ	基本知識を活用して事例について理解し看護を一緒に深めましょう。		

科目名	成人看護Ⅰ(慢性期)		
担当教員	長谷川 琢(10時間) 中村 一世(4時間) 五十嵐 栄理佳(4時間) 笠松 茂則(4時間) 吉村 裕子(4時間) 平崎 奈央子(4時間)		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	慢性期にある対象と家族を理解し、セルフケア能力を高める援助方法を学ぶ。 成人期の特性を捉えつつ、長期にわたり自己管理を要することとなった、その人に必要な観察・援助を考えることができるようになる。		
到達目標	慢性期看護の考え方について理解することができる。 慢性期にある人の心理・社会的特徴を理解することができる。 慢性期にある人への看護援助について理解することができる。 SMBGとインスリン自己注射の演習から、慢性期にある患者の苦痛や問題と看護の必要性を理解することができる。 生涯にわたる様々な疾病コントロールが必要な人へ、具体的に実践されている看護について学ぶことができる。 事例展開を行い、慢性期にある患者への看護について展開し発表することができる。		
授業概要	長谷川講師の1回目～2回目は慢性期看護の特徴と慢性期理論について学びます。3回目は実習室で演習を行いレポートを提出してもらいます。4～5回目は事例展開した内容を発表してもらいます。他講師の授業は、講義形式です。		
授業計画・内容	<p>授業内容</p> <p>《長谷川講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性期看護の特徴 心理的サポート 病みの軌跡 疾病受容過程 コンプライアンスとアドヒアランス</li> <li>セルフケア 自己効力感</li> <li>演習 SMBGの援助と実際 インスリン自己注射の援助と実際</li> <li>5.「長期にわたり自己管理を要する患者の看護」事例検討 事例検討発表・事例検討まとめ</li> </ol> <p>《五十嵐講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>糖尿病とともに生きる人の看護 (1)糖尿病の基礎知識:診断・検査・治療・症状・合併症 (2)援助</li> </ol> <p>《中村講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>心不全とともに生きる人の看護 (1)心不全の基礎知識:診断・検査・治療・症状・合併症 (2)援助</li> </ol> <p>《笠松講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>慢性呼吸不全とともに生きる人の看護 (1)慢性呼吸不全の基礎知識:診断・検査・治療・症状・合併症 (2)援助</li> </ol> <p>《吉村講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>肝硬変とともに生きる人の看護 (1)肝硬変の基礎知識:診断・検査・治療・症状・合併症 (2)援助</li> </ol> <p>《平崎講師》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>腎不全とともに生きる人の看護 (1)腎不全になること・保存期患者の看護・治療選択への支援 (2)血液透析 導入期の看護:患者の生活指導・緊急導入時の看護 (3)維持透析患者の看護:血液透析前・中・後の看護 腹膜透析患者の看護</li> </ol>		
使用テキスト	成人看護学 慢性期看護論 鈴木 志津枝(ヌーヴェルヒロカワ) 系統看護学講座 専門Ⅱ 腎泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌代謝 成人看護学⑥ (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学② (医学書院)		
参考書	講義時に提示する。		
評価基準方法	長谷川講師 ペーパーテスト(35%)事例展開・発表・参加態度(13%) 演習レポート(2%) 中村講師(10%) 五十嵐講師(10%) 笠松講師(10%) 吉村講師(10%) 平崎講師(10%) コロナの影響で講義内容・評価基準が変更になる可能性があります。		
備考・学生へのメッセージ	必ず、予習復習をして授業に参加してください。		

科目名	老年看護概論		
担当教員	中村 園美(15時間) 長尾 真由美(15時間)		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 30時間
科目のねらい	<p>老年期にある対象の加齢現象を精神的・社会的特徴を理解し、老年看護の意義と役割、機能を学習する。</p> <p>高齢者を取り巻く家族と高齢社会の保健・医療・福祉の現状と施策を理解する。</p>		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老化と加齢について理解できる。</li> <li>2. 老年期の発達課題が理解できる。</li> <li>3. 日本の高齢社会の特徴と高齢社会の要因が理解できる。</li> <li>4. 高齢者の病気の特徴が理解できる。</li> <li>5. 高齢者の加齢現象と精神的・社会的特徴について理解できる。</li> <li>6. 高齢者保健の変遷と介護保険制度の成立の背景、介護保険制度の概要がわかる。</li> <li>7. 認知症についてわかる。</li> <li>8. エイジズムとはどのような事か述べられ、自分の中のエイジズムについて考えることができる。</li> <li>9. 虐待の定義・種類と虐待の現状がわかり、虐待を防ぐ方法を考えることができる。</li> <li>10. 身体拘束とは何かが述べられ、身体拘束が引き起こす事柄について考えることができる。</li> <li>11. 老年看護の目的・目標がわかる。</li> </ol>		
授業概要	<p>テキストとパワーポイントで講義を進めていきます(プリントは適宜配布)。</p> <p>講義の中でDVDを視聴することがあります(DVDは学内貸し出し可)。</p> <p>「加齢に伴う変化」については、授業後にノート課題提出があります。</p> <p>「介護保険制度」については、グループワークや課題提出があります。</p>		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老年看護学のねらいと構成 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 老化と加齢について</li> <li>2) 高齢社会と高齢化の現実</li> <li>3) 高齢者が生きてきた時代 高齢者のライフヒストリー</li> </ol> </li> <li>2. 加齢に伴う変化 <ol style="list-style-type: none"> <li>A 加齢に伴う身体的側面の変化 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 循環器系 2) 呼吸器系 3) 消化器系 4) 腎泌尿器系</li> <li>5) 運動器系 6) 内分泌系 7) 感覚器系 8) 脳神経系</li> </ol> </li> <li>B 加齢に伴う心理的側面の変化 知能, パーソナリティー</li> <li>C 加齢に伴う社会的側面の変化 高齢者の社会的孤立</li> </ol> </li> <li>3. 高齢者の定義 ライフサイクルと発達課題</li> <li>4. 高齢者を取り巻く保健・医療・福祉 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 保健・医療・福祉の動向</li> <li>2) 介護保険制度 (グループワーク)</li> </ol> </li> <li>5. 高齢社会における権利擁護 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 高齢者に対する差別, エイジズム</li> <li>2) 高齢者と性</li> <li>3) 高齢者虐待</li> <li>4) 身体への拘束</li> <li>5) 権利擁護のための制度</li> </ol> </li> <li>6. 認知症について</li> <li>7. 老年看護の目標と役割</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考書	国民衛生の動向 (厚生労働統計協会) 公衆衛生がみえる 医療情報科学研究所 編 (メディックメディア)		
評価基準方法	筆記試験とレポート課題・講義参加態度をもとに総合的に行う。		
備考・学生へのメッセージ	高齢化の進んだわが国での、看護の対象の多くは高齢者です。老年看護について一緒に学んでいきましょう。 予習復習をして講義に参加しましょう。		

科目名	小児看護概論		
担当教員	熊木 美香		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	この科目では、小児の特徴を理解し、小児看護の役割と機能を学びます。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 小児の成長・発達と発達課題を理解する。</li> <li>2. 小児の特徴を知り、小児看護の役割が説明できる。</li> <li>3. 小児をとりまく社会状況と動向を理解する。</li> <li>4. 小児看護の変遷を理解する。</li> <li>5. 小児看護における家族の位置づけを理解する。</li> <li>6. 小児看護に必要な理論を理解する。</li> <li>7. 子どもと家族を支援するための法律・施策について説明することができる。</li> </ol>		
授業概要	子どものイメージが付きやすいように視聴覚教材を活用しながら進めていきます。講義形式だけでなく、学生同士で意見交換しながら子どもの理解を深めていきます。		
授業計画・内容	<p>第1・2回 小児看護の特徴と理念</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)小児看護の対象</li> <li>2)小児看護の目標と役割</li> <li>3)小児看護の変遷</li> <li>4)小児看護における倫理 子どもの権利に関する条約・小児看護における倫理について課題レポート提出</li> <li>5)小児看護の課題</li> </ol> <p>第3～5回 小児の成長・発達</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)成長・発達の進み方</li> <li>2)成長・発達の評価 小児看護で用いられる理論の概要</li> </ol> <p>第6回 小児看護における家族の位置づけ</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)子どもにとっての家族とは</li> <li>2)現代家族の特徴</li> <li>3)家族アセスメント</li> </ol> <p>第7・8回 小児看護と法律・施策</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)小児に関する法律・施策</li> <li>2)母子保健施策</li> <li>3)学校保健</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論/小児臨床看護概論 小児看護学①(医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		
参考書	講義の中で紹介します。		
評価基準方法	授業への参加状況及びレポート等の提出物(15%)、筆記試験(85%)を合算し、総合的に評価します。		
備考・学生へのメッセージ	毎回講義の振り返りシートの記載を行います。 講義で解らないことは積極的に質問してください。		

科目名	母性看護概論		
担当教員	藤本 沙織		
配当年度	1学年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	母性看護の概念を基盤に、女性のライフサイクル各期の特徴を理解し、女性とその家族が一生を通じて健康に過ごすための母性看護の機能と役割を学ぶ。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の基盤となる概念について述べることができる。</li> <li>2. 母子保健行政と母性に関する法律について述べるができる。</li> <li>3. 女性のライフサイクル各期の特徴とその看護について述べるができる。</li> <li>4. 現代社会における女性の健康をめぐる課題とその対応について述べるができる。</li> </ol>		
授業概要	テキスト、配布資料、パワーポイントを使用して講義をすすめます。		
授業計画・内容	<p><b>第1・2・3回 母性の基盤となる概念</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性とは</li> <li>2. 母子関係と家族発達</li> <li>3. セクシュアリティ</li> <li>4. リプロダクティブヘルス／ライツ</li> <li>5. ヘルスプロモーション</li> <li>6. 母性看護のあり方</li> </ol> <p><b>第4・5回 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 母性看護の変遷</li> <li>2. 母子保健統計の動向</li> <li>3. 母性看護に関する組織と法律</li> <li>4. 母子保健に関連する施策</li> <li>5. 母性看護の取り巻く環境</li> </ol> <p><b>第6・7回 女性のライフステージ各期における看護</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性</li> <li>2. 思春期の健康と看護</li> <li>3. 成熟期の健康と看護</li> <li>4. 更年期の健康と看護</li> <li>5. 老年期の健康と看護</li> </ol>	<p><b>第8回 リプロダクティブヘルスケア</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族計画</li> <li>2. 性感染症とその予防</li> <li>3. HIVに感染した女性に対する看護</li> <li>4. 人工妊娠中絶と看護</li> <li>5. 性暴力を受けた女性に対する看護</li> <li>6. 児童虐待と看護</li> </ol>	
使用テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 母性看護学(1) 母性看護概論 (医学書院)		
参考書	公衆衛生がみえる 2020-2021 (MEDIC MEDIA)		
評価基準方法	講義終了後の筆記試験(100点)によって評価します。		
備考・学生へのメッセージ	授業計画・内容の該当部分を予習し、授業に臨んでください。		

科目名	精神看護概論		
担当教員	佐藤 かをり		
配当年度	1年 後期	単位数・時間	1単位 15時間
科目のねらい	ライフサイクルにおける健全な心の発達とそれに影響する要因を理解し、精神の健康を維持・増進・回復のための看護の役割について理解する。		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神の健康について説明できる</li> <li>2. こころの働きと危機について説明できる</li> <li>3. 精神の健康問題について理解できる</li> <li>4. 精神医療、看護の変遷と関連する法律、制度について学ぶ</li> <li>5. 精神障害のとらえ方、精神看護の基本的な考え方について理解する</li> <li>6. 精神看護の目的、目標、役割を説明できる</li> </ol>		
授業概要	テキスト、配布資料、パワーポイントを使用して講義をすすめます。		
授業計画・内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 精神看護とは</li> <li>2. 発達と精神の健康</li> <li>3. 人間のこころの働きと人格の発達</li> <li>4. こころの危機とストレス</li> <li>5. こころの健康と環境</li> <li>6. 精神保健の歴史と法制度</li> <li>7. リエゾン精神看護</li> </ol>		
使用テキスト	系統看護学講座 精神看護の基礎 精神看護学①(医学書院) 学生のための精神看護学(医学書院)		
参考書	国民衛生の動向(厚生労働統計協会) 系統看護学講座 精神看護の展開 精神看護学② ナーシング・グラフィカ情緒発達と精神看護の基本 精神看護学①(メディカ出版)		
評価基準方法	筆記試験、出席状況をもとに総合的に評価を行う。		
備考・学生へのメッセージ	予習、復習をして講義に臨んでください。自らの心の健康にも関心をもって学習をすすめましょう。		